

## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年 2月 28日

事業所名：児童発達支援 わかば

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	活動中は気が散るものは片付けている。 机、いす等は邪魔にならないように移動させている。	・回答頂けた90%が「はい」と答えられ、1名が「わからない」と答えられている。	保護者が参観できる機会を職員間で話し合い検討していく。
	2	職員の適切な配置	配置している。 利用者に合わせて、職員を配置している。	回答頂けた82%が「はい」と答えられ、2名が「わからない」と答えられている。	保護者が参観できる機会を職員間で話し合い検討していく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	利用者に応じて、絵カードや写真入りカードにより視覚的な配慮を行ったり個別的に説明を実施している。室内やトイレには段差はない。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	職員間でさらなる改善を話し合い、実施していきたいと思う。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日清掃、消毒をしている。 作業机や個別机を設置し各利用者に応じた対応している。 季節に応じたものを制作し壁面に飾っている。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員会議、日々の業務・利用者の情報共有を図り改善点を話し合っている。	/	職員会議においても支援の検証や改善の話し合いを積極的に行っていく。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価はあるが業務改善の為の会議は未実施である。	/	
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	法人内研修も以前に比べて出来ていない、外部研修もコロナの影響で参加しにくい状況である。法人内研修を行う場合、参加できない職員には書面で伝えたり前もって意見を聞いたりしている。	/	現状の取り組みを継続していく。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	初回は契約時、以降は6か月に1回保護者と面談を行いアセスメント、モニタリング、計画の作成をしている。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	利用者さまの現状を具体的に職員間で共有し、個別療育へ繋げられるよう努めていく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用者に応じた個別活動、集団活動を組み合わせて計画書を作成している。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	支援計画に沿って具体的な目標を設定し、取り組めるよう職員会議で話し合っていく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	家族や本人のニーズ及びアセスメントにより解決すべき課題や強みを家族と相談し項目を設定し実施できるよう具体的に支援内容を記載している。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	保護者さまのアセスメントをもとに職員会議で話し合い、支援内容を検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援の目標、具体的支援を確認し共有している。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	職員間で情報の共有をおこない、質の高い支援が行えるよう努めていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員会議で活動プログラムの立案・役割分担を行っている。		現状の取り組みを継続していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は幼稚園後の利用のご利用者様は利用時間が短くなるため個別療育の時間を取るようにしている。また長期休暇は朝からのご利用が多くなるので、個別療育の時間も取りやすく、長期休暇にあった季節にあった取り組みなどを取り入れている。		現状の取り組みを継続していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	活動の内容や季節に合わせた活動など、様々な活動に利用児皆が参加できるように工夫している。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	当日には支援内容や役割分担の再確認を行っている。		送迎前に一日の流れ、利用者さまの様子を伝える時間を設け、職員間の作業確認をおこなう。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	職員間での気づきや振り返りを業務日誌にも記載し当日休みの職員も確認できるようにしている。		日誌の記録だけでなく、職員間同士でも情報の共有がおこなえるよう努めていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	細かな詳細を正確に日誌に記載するようにしている。		利用者さま個人の記録に保護者さまとのやり取りも含めて、書面として記録に残すよう努めていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングの実施・見直しをおこなっている		職員間で情報の共有をおこない、質の高い支援が行えるよう努めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	サービス担当者会議には参画できていないが、相談支援事業所とは連絡を取ったり、コロナの状況によってはわかばに来てもらいお話している。		サービス担当者会議へ参画できるよう、時間の確保、環境の確保ができるよう努めていく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	情報共有を行う場合は保護者様に相談してからおこなっている。時間の確保が難しい場合がある。		保育園や他事業所と情報の共有をおこなう機会はあったが十分でないため、交流する機会があれば参加していきたい。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供			
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の促進	少しずつ外部との交流が増えてきたが、コロナ禍の影響で積極的には難しい。		参加できる研修があれば積極的に参加し、オンライン研修などにも参加したい。また研修内容を職員間で共有していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	交流の機会は中々持っていないのが現状。	回答頂けた67%が「わからない」と答えられ、1名が「いいえ」と、2名が「はい」答えられている。	コロナの状況を見て、保護者さまにアンケートをとり交流の機会について検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域に開かれた事業とは言い難い		コロナの状況を見て、交流の機会がもてるよう検討する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	お会いして説明をおこなっている。丁寧にご説明するよう心掛けている。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。また必要に応じて個別でのやり取りをおこなっていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	お会いして説明をおこなっている。丁寧にご説明するよう心掛けている。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。また必要に応じて個別でのやり取りをおこなっていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	コロナの影響もあり、以前やっていた月1回の個別療育が実施できていない。	回答頂けた70%が「はい」と答えられ、1名が「いいえ」と、2名が「わからない」答えられている。	保護者さまとの日々の連絡の際に、必要に応じて個別でのやり取りを検討していく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に直接お会いしてその日の様子をお話している。情報共有のツールとして連絡ノートも使用している。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時や面談時に、対応の仕方や悩みなど相談にお答えしている。また連絡帳でお伝えすることもある。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。また必要に応じて個別でのやり取りをおこなっていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	コロナの影響もあり数回ぐらいしか実施できていない。	回答頂けた33%が「はい」と答えられ、2名「どちらともいえない」、1名「いいえ」、3名「わからない」と答えられている。	感染対策に気を付け、親子で参加するイベントや、情報共有の場が開催できるよう話し合っていく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情があった場合には迅速に適切な対応を行う。	回答頂けた90%が「はい」と答えられ、1名が「わからない」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	送迎時に直接お会いしてその日の様子をお話している。情報共有のツールとして連絡ノートも使用している。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。また必要に応じて個別でのやり取りをおこなっていく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月おたよりを発行している。次の月のカレンダー作りを活動内容に取り入れ、活動内容を確認できるようにしているが作る曜日を固定にしているので作れていないご利用者様もいる。	回答頂けた90%が「はい」と答えられ、1名が「わからない」と答えられている。	月のカレンダーについて全ての利用者さまが参加できる内容を検討していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取り扱いには注意して対応している。	回答頂けた90%が「はい」と答えられ、1名が「わからない」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルは職員、保護者への周知を行っている。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	職員間でマニュアルの再確認をおこなう機会をつくっていくよう努める。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	月に1回避難訓練を実施している。毎月曜日を変えて、利用している子ども皆が参加できるようにしている。	回答頂けたすべての方が「はい」と答えられている。	現状の取り組みを継続していく。連絡ツールを活用しながら保護者さまにも周知してもらえるよう努める。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年2回虐待防止研修を実施している。		現状の取り組みを継続していく。職員間でも話し合う機会を検討していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状で身体拘束を行う利用児はいないが、必要であれば保護者の同意を得る。		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーは適切な対応を行っている。		現状の取り組みを継続していく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	会議で事例検討を行っている。		現状の取り組みを継続していく。